

環境への取組

企業局が行っている水道用水供給事業と工業用水道事業は、「水」という自然からの恩恵を受けて営まれる、地球環境と深く結びついた事業です。

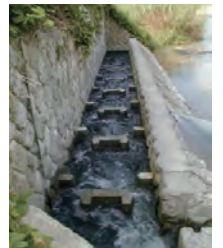
一方で、水を安定的に供給するためには、多くのエネルギーを消費します。沖縄本島は、水源地から消費地までの距離が長いので、ポンプの動力を利用して水を送る必要があり、ポンプの動力を得るために多くの電力を消費しているというのが実状です。

そこで企業局では、環境負荷の軽減を図るため、様々な環境保全に関する取組を実施しています。さらに、企業局中長期計画においても「環境へ配慮した経営」を推進施策の一つとして位置づけ、各取組を推進しています。

水源の環境保全

河川には、貴重な動植物が生息しているため、取水ポンプ場周辺の清掃活動や魚道の設置・改修、魚道モニタリング調査を実施し、河川環境保全に取り組んでいます。

さらに、河川の取水堰に堆積した土砂の除去を始め、ダムや河川の水面に繁殖する植物や流木などの撤去、水源水質の保全など、企業局では、取水河川を適正に管理し、水源地の自然環境を守るため、これらの取組を通して、水源の環境保全に努めています。



(写真)
河川魚道

資源の有効活用

浄水場の浄水過程で発生する土は、中間処理業者へ処分を委託し、建設改良土としてリサイクルし、有効活用を図っています。

そのほか、硬度低減化で発生するペレットを有効活用しています。

さらに、建設副産物はリサイクルを推進し、環境負荷低減に努めています。

再生可能なエネルギーの有効利用

西原浄水場と石川浄水場には、比較的小さな水量と水位差で発電可能な小水力発電設備を導入しています。両浄水場では、同設備で発電した電力を利用し、CO₂排出量の削減と電力費の節減に大きく役立っています。

また、大湾小水力発電施設は、喜名原水調整池から北谷浄水場へ送る水量と水位差で発電しCO₂排出量の削減に役立っています。



(写真)
小水力発電

安全で安心な水を
みなさまへお届けします

